opusdei.org

聖ホセマリアの生涯 -57

1946年11月、再びローマに 戻った聖ホセマリアはオプ ス・デイの本部となる建物と 土地を探し、オプス・デイの 統治やその精神に関する文書 の作成など、様々な仕事に取 り組みます。

2024/08/28

1946年11月、再びローマに戻った聖ホセマリアはオプス・デイの本部となる建物と土地を探し、オプス・デ

イの統治やその精神に関する文書の 作成など、様々な仕事に取り組みま した。同時に、ローマにいる教会の 人たちにオプス・デイの説明をしよ うとしました。そのために使われた 手段が、住んでいたアパートに招待 し一緒に食事をすることでした。

1946年の年末に女子のメンバーが5 人到着し、アパートの管理と家事に 当たりました。しかし、それは極端 な貧しさの中でした。一人がこう 言っています。「すべてが足りませ んでした。私たちは折りたたみ式の ベッドや床で寝ました。お金がなく 暖房をつけることができませんでし た、空腹と寒さに苦しみました」。 お金がないことに加えて、戦後の食 料不足、ガスや電気が頻繁に止まる ことなど料理人を泣かせる材料には 事欠きません。しかし、彼女たちの 超人的な働きのおかげで、食事に招 待された人々に楽しい雰囲気の中で オプス・デイについて話すことがで

きたのです。皆とても満足して帰りましたが、その裏の困窮には気づきませんでした。「接待客がないときは、私たちは断食をした。喜んで」とドン・アルバロは言っています。この状況の中で、聖ホセマリアやドン・アルバロはよく病気になりました。

1947年2月2日、待望の文書が教皇庁 から発布されました。それは『プロ ヴィダ・マーテル・エクレシア』と いう名前の文書で、これによって教 会の中に「在俗会」という新しい形 態の組織が認められました。つま り、修道者になることなしに、社会 の中で福音を生きることを誓う聖職 者、あるいは信徒の会が教会の中に 生まれたのです。2月24日にはオプ ス・デイが在俗会として認可されま した。これによってオプス・デイは 教会の正式な一組織として世界のど こででも働くことが可能となったの です。

創立者はこの認可を神に感謝しました。ただ、在俗会という形態にはオプス・デイの純粋に世俗的な性格とは相容れない要素もあり、パドレはなおオプス・デイにぴったり当てはまる法的な形態を探し続けるのです。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-57/ (2025/11/20)